

安全データシート コダール S 水和剤

1. 製品及び会社情報

製品の名称

製品名／別名／製品コード： コダールS水和剤

会社情報

会社名： 日本化薬株式会社

住所： 東京都千代田区丸の内2丁目1-1

担当部門： アグロ事業部

電話番号： 03-6731-5325

FAX番号： 050-3730-8045

緊急連絡先： 平日・昼間 アグロ事業部（電話番号03-6731-5325）

休日・夜間 鹿島工場（電話番号0479-46-2753）

メールアドレス： agro.info@nipponkayaku.co.jp

用途及び使用上の制限： 除草剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入）	分類できない
皮膚腐食性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	区分1
水生環境有害性 長期（慢性）	区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル：



安全データシート コダールS水和剤

吸入した場合	新鮮な空気の所に移して安静にさせる。 気分が悪いときは医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣類を脱ぎ、多量の水または石鹼水でよく洗い落とす。 皮膚刺激や発疹が生じた場合には医師の診断を受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用している場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	無理に吐かせてはならない。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 直ちに医師の手当てを受ける。
急性症状	情報なし
遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし
応急措置をする者の保護	救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	噴霧水・泡消火剤・粉末ドライケミカル・炭酸ガス (適宜、状況に応じて使用する)
使ってはならない消火剤	情報が無いことも記載
特有の危険有害性	冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。
特有の消火方法	消火作業は、可能な限り風上から行う。 周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。 移動不可能な場合は、周辺または容器に散水し冷却する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼさないよう適切な措置を行う。
消火を行う者の保護	消火に当たる者は、有毒ガスが発生するので呼吸保護具を着用する。 消火の際は適切な保護具(マスク、眼鏡、手袋)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	漏出(飛散)した場所の周辺にロープを張るなどし、関係者以外の立ち入りを禁止する。処理時には保護具(防毒マスク、ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣)を着用することにより、吸入や、手足や顔などへの付着を避ける。
環境に対する注意事項	漏出(飛散)した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
回収・中和	掃き集め、密閉容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法	粉塵が飛散しないように注意しながらできるだけ掃き集め、密閉容器に回収する。
二次災害防止策	—

安全データシート コダール S 水和剤

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項

火災、爆発防止などの技術的対策

炎、火花、もしくは高温体との接触または過熱を避ける。

機器類は防爆型とし、設備は静電気対策を実施する。

取扱者のばく露防止策

取り扱いには換気の良いところで行う。

皮膚、粘膜、着衣への接触を避け、目に入らないようにする。

発散した粉塵を吸い込まないようにする。

休憩場所には、手洗い、洗眼などの設備をもうけ、取扱い後には手などをよく洗う。

食品や飼料への混入を避けること。

指定された場所以外では、飲食、喫煙しないこと。

保護衣、保護眼鏡、保護手袋など、適切な保護具を着用する。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの不適切な取り扱いをしてはならない。

エアロゾル・粉じんの発生防止策

情報なし

保管上の注意事項

混触させてはいけない化学物質

酸 アルカリ 酸化剤

保管条件(適切及び避けるべき条件)

直射日光を避ける。

低温の乾燥した場所に、密封して保管する。

食品、飼料と一緒に保管しないこと。

容器包装材料

基本的には製品容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

プロメトリン、S-メトラクロールともに設定されておらず

許容濃度 (ばく露限界値、生物学的指標)

ACGIH

プロメトリン

TWA : 2mg /m³ inhalable particulate matter

S-メトラクロール

設定されておらず

日本産業衛生学会(2021年)

プロメトリン、S-メトラクロールともに設定されておらず

設備対策

局所排気装置の設置または全体換気を適切に行うことが望ましい。

取扱場所の近くに洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸用保護具

防塵マスク

手の保護具

ゴム手袋

眼及び顔面の保護具

保護眼鏡 ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

保護衣 (長袖)

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

水和性粉末

色

類白色

臭い

無臭

融点/凝固点

データなし

安全データシート コダール S 水和剤

沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	9～10
動粘性率(動粘度)	データなし
溶解度	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数(Log値)	プロメトリン log POW = 3.1 (25°C) S-メトラクロール log POW = 3.0 (25°C)
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度(比重)	データなし (仮比重：約0.2g/cm ³)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他のデータ(任意)	—

10. 安定性及び反応性

反応性	低い
化学的安定性	通常の取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	酸、アルカリ、酸化剤
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	情報が無いことも記載
(経口)	ラット 雌 LD50 >2000 mg/kg
(経皮)	ラット 雄雌 LD50 >2000 mg/kg
(吸入：ガス)	情報なし
(吸入：蒸気)	情報なし
(吸入：粉じん／ミスト)	情報なし
皮膚腐食性／刺激性	ウサギ 軽度の刺激性あり
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	ウサギ 中程度の刺激性あり。洗眼効果あり。
呼吸器感作性	情報なし
皮膚感作性	モルモット 陰性 (Buehler法)
生殖細胞変異原性	動物実験で陰性 (プロメトリン S-メトラクロール)
発がん性	動物実験で陰性 (プロメトリン S-メトラクロール)
生殖毒性	動物実験で陰性 (プロメトリン S-メトラクロール)
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	情報なし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	情報なし

安全データシート コダール S 水和剤

誤えん有害性 情報なし

1 2. 環境影響情報

生態毒性

水生生物 : コイ LC50 26.9 mg/L (96 hr)
オオミジンコ EC50 35.7 mg/L (48 hr)
緑藻 ErC50 0.052 mg/L (72 hr)

水生環境有害性 短期(急性) 水生生物への試験結果から区分 1 に該当する。

水生環境有害性 長期(慢性) 水生生物への試験結果から区分 1 に該当する。

陸上生物急性有害性 情報なし

残留性・分解性 情報なし

生体蓄積性 情報なし

土壤中の移動性 情報なし

オゾン層への有害性 情報なし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

下水道、いかなる水域、土地にも投棄してはならない。

汚染容器及び包装： 容器・包装等を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。

使用した器具を洗浄する際、環境や水の汚染を避けること。

空容器を再利用してはならない。

1 4. 輸送上の注意

国際規制 航空輸送はIATA及び海上輸送はIMDGの規制に従う

陸上輸送 ADR/RID クラス 9 PGIII

海上輸送 IMDG コード クラス 9 PGIII

航空輸送 ICAO/IATA クラス 9 PGIII

国連番号 3077

国連品名 環境有害性物質 (固体)、N.O.S (プロメトリン、S-メトラクロール)

国連危険有害性クラス クラス 9

副次危険性 ー

容器等級 III

海洋汚染物質 該当

MARPOL 7 3 / 7 8 付属書 2 及び ー

IBCコードによるばら積み

輸送される液体物質

国内規制

海上規制情報 船舶安全法 危険物船舶運送及び貯蔵規則 第3条 有害物質

安全データシート コダールS水和剤

航空規制情報	航空法 航空法施行規則 第194条 その他の有害物件
陸上規制情報	非該当
緊急時応急措置指針番号	171
輸送上の特別安全対策及び条件	車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人へイエローカードを携帯させる。 車両等には、所定の標識板、消火器、火災防止資材を備える。 容器が破損しないように、混載するときは注意すること。 取り扱い及び保管上の注意事項に留意する。

1 5. 適用法令

農薬取締法：	適用（農林水産省登録 第23414号）						
消防法：	非該当						
毒物及び劇物取締法：	非該当						
労働安全衛生法：	以下のものは、令和7年4月1日から労働安全衛生法施行令別表第9のSDS交付等による名称等通知義務対象物質に該当						
	<table><thead><tr><th>名称</th><th>番号</th><th>含有率</th></tr></thead><tbody><tr><td>メトラクロール</td><td>471</td><td>24.8%</td></tr></tbody></table>	名称	番号	含有率	メトラクロール	471	24.8%
名称	番号	含有率					
メトラクロール	471	24.8%					
	以下のものは、令和8年4月1日から労働安全衛生法施行令別表第9のSDS交付等による名称等通知義務対象物質に該当						
	<table><thead><tr><th>名称</th><th>番号</th><th>含有率</th></tr></thead><tbody><tr><td>ポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニルエーテル</td><td>1956</td><td>2.0%</td></tr></tbody></table>	名称	番号	含有率	ポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニルエーテル	1956	2.0%
名称	番号	含有率					
ポリ（オキシエチレン）＝ノニルフェニルエーテル	1956	2.0%					
	以下のものは、労働安全衛生規則第594の2（皮膚等障害化学物質）の皮膚刺激性有害物質に該当						
	<table><thead><tr><th>名称</th><th>番号</th><th>含有率</th></tr></thead><tbody><tr><td>S-メトラクロール</td><td>—</td><td>24.8%</td></tr></tbody></table>	名称	番号	含有率	S-メトラクロール	—	24.8%
名称	番号	含有率					
S-メトラクロール	—	24.8%					
化学物質排出把握管理促進法(化管法)：	以下のものは、指定化学物質に該当						

名称	種別	管理番号	含有率
S-メトラクロール	第一種	607	24.8%
プロメトリン	第一種	701	26.6%
ポリ（オキシエチレン）＝アルキルフェニルエーテル（アルキル基の炭素数が9のものに限る。）	第一種	410	2.0%

1 6. その他の情報

引用文献：	日本工業規格 GHSに基づく化学品の分類方法(JIS Z 7252:2019) 日本工業規格 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法(JIS Z 7253: 2019) 国際連合 化学品の分類および示に関する世界調和システム(GHS)(改訂6版)
-------	---

安全データシート コダール S 水和剤

記載内容の問い合わせ先：	アグロ事業部	03-6731-5325
改訂の記録：	作成	2014年1月16日
	改訂	2014年8月18日 本社移転に伴う住所変更
	改訂	2022年4月6日 JIS Z 7252/7253 2019年版に対応 2021年化管法政令改正対応
	改訂	2022年9月22日 原体含有量の修正
	改訂	2023年2月17日 成分及び含有量の見直し
	最終改訂	2024年3月08日 労働安全衛生規則改正に伴う改訂

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。すべての化学製品には未知の有害性があり得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、記載事項は通常の取り扱いを対象にしたものですので、特別な取り扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施のうえ、お取り扱い願います。